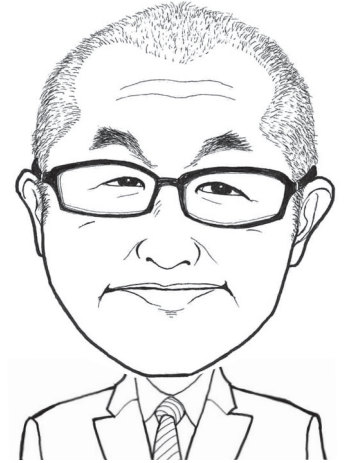


新規就農の支援体制 について



橋本 晃明 議員

町長

新規参入希望に対する相談・支援を心掛けている
今後も、情報収集に努め、関係機関と協議していく

問

今、酪農をはじめ農業はかつてない厳しい経営環境にあり、どのように乗り切っていくか真剣に取り組まなければならないが、一方で中長期的な視点を忘れずに農業・農村の将来像を考えることが重要であると思う。

新規就農（新規参入、後継者）について町長の考えを伺う。

（１）新規参入を推進・支援する考えはあるか。後継者が戻ってくる魅力ある農業・農村づくりはできているか。

（２）新規就農に向けた研修の仕組みはあるのか。

（３）新規就農希望者の減少は、酪農ヘルパーや牧場従業員の不足につながるという危機感はあるか。

（４）農業委員会・農協・普及センターなどと連携して受け入れる体制はできているか。

（５）全国の新規参入希望者への訴求力を強化するため、近隣町村、あるいは十勝全域での連携を強化する考えはあるか。

町長

本町では過去5年間に

新規参入された方が3組、後継者の方は14名が戻られている。農家戸数の減少は農村集落の衰退につながるので、新規参入希望者に対する相談・支援を心掛けている。生産者の要望を聞いて、農協とともに取り組んでいきたい。

（１）（２）現在、研修については、農業法人の従業員や酪農ヘルパーでの経験を積むなどにより技術の習得を行っている。また、農業改良普及センターにおいて座学研修を開催する予定である。

（３）新規就農希望者の減少は酪農ヘルパー職員等の不足につながるものと考えている。コロナ禍

ではあったが、昨年度北海道新規就農フェアに出展している。

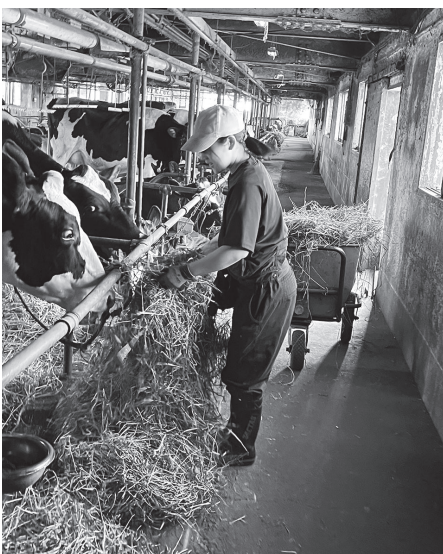
今後も、一人でも多くの新規就農希望者と面談・相談を行っていきたい。

（４）関係機関との連携については、研修場所の選定、活動状況等の情報共有、経営継承等の検討、就農計画作成、農用地の斡旋等、それぞれの役割において新規就農者と面談し、連携して取り組んでいる。

（５）近隣町村、あるいは十勝全域での連携については、現在のところ情

報共有までには至っていない。

他管内での取り組みには参考になる事例が多くあり、今後情報収集に努め、関係機関とも協議していきたい。



飼料給与中の酪農ヘルパー



プレミアム商品券の利用拡大の取り組み



川上 均 議員

町長 利用者が使いやすい商品券になるよう、商工会等と協議を進める

町長 令和5年度もプレミアム率20%の商品券を3回発行し、2回を大型スーパー等、1回を小規模店舗限定で予算計上している。可能な限り多くの店舗が本事業に参加し、利用者を使い勝手の良い商品券になるよう商工会等

問 町はプレミアム商品券事業を継続しているが、町民からは用途と店が限られ使い勝手が悪いとの声が聞かれる。他町のように町内全店、または税金や使用料等への使用、生活困窮世帯に無料配布出来ないか考えを伺う。

と協力し進めたい。生活困窮世帯に対する商品券無料配布は国や道の動向を見極め、現金支援あるいは商品券支援については保健福祉課、子育て支援課と連携し検討したい。

清水高校の存続が困難となった場合の影響と考えは

教育長 2間口になることにより存続が出来なくなるとは考えていない
引き続き、振興会を通じて支援していく

教育長 現在30名の教職員は令和5年度3名、2学級の入学者が続くと令和6年度2名、令和7年度3名減少すると聞いている。これにより科目数が減少し学びの幅が狭まると思われるが、清水高校が2間口になり総合学科としての特色ある教育ができず、存続できなくなるとは考えていない。道教委も多様なタイプの高校づくりを推進し、総合学科も同様と認識している。今後も学校の「魅力化向

問 清水高校の現状は、このままでは令和5年度2名、令和6年度3名の教員削減と聞いており、間口減により総合学科としての機能が果たせず、最悪の場合存続の危機が想定される。もしそうなった場合の影響についてどのように考えているのか考えを伺う。

上」への支援について振興会を通じ実施していく。



清水高校

公衆浴場工事等休館期間の代替措置の取り組み

町長 休館となった場合、近隣町村への車両送迎を実施する



公衆浴場

町長 代替手段については、今後臨時休館となった場合は利用できない日数等を考慮しながら、近隣町の浴場への車両送迎を実施するよう対応したい。

問 昨年の公衆浴場休館では、自宅に風呂がなく交通手段のない町民は入浴の機会が奪われ、長期に渡り入浴できず公衆衛生上も問題と考えられる。今後長期休館時の代替手段の検討について考えを伺う。